

施設名	展覧会・イベント	日時・場所	費用・定員・申し込み
豊科郷土博物館 TEL72-5672	ボタニカルアート展・写真展	■6月3日(土)～18日(日) 9:00～17:00 (最終日は16:00まで) ■2階展示室	■費要入館料
田淵行男記念館 TEL72-9964	田淵行男密画展「北アルプスの蝶」	■6月6日(火)～8月27日(日) 9:00～17:00 ■地階展示室	■費要入館料
	みなづき湧水コンサート 「齊藤涼花ハーブコンサート」	■6月10日(土) 15:30～16:30 ■地階展示室	■費要入館料 ■定30人(先着順) ■5月30日(火)から電話で
貞享義民記念館 TEL77-7550	下田忠壽 「なつかしい「小川と小径、写真展」	■6月9日(金)～24日(土) 9:00～17:00 ■1階企画展示室	■費無料
	三郷陶芸クラブ展示会「絆」展	■6月28日(水)～7月2日(日) 9:00～17:00 ■1階企画展示室	■費無料
穂高交流学習センター「みらい」 TEL81-3111	第12回新進音楽家公開オーディション (観覧者募集)	■7月2日(日) 9:30～12:00(ジュニアの部) 13:00～17:00(一般の部) ■多目的交流ホール	■費無料 ■定各回70人(先着順) ■6月14日(水)から電話で

■休館日、開館時間などは各施設へお問合せください。

■豊科郷土博物館は収蔵資料の防虫燻蒸作業のため、5月30日(火)・31日(水)に臨時休館となります。

邂逅と対話の安曇野紀行

「研成義塾之碑」

矢原耕地の集会所を仮教室にあてて、とりあえず開塾ときまった時は、年内にも新築のつもりだった。それが思うにまかせなくて、三年が過ぎてしまった。

(小説『安曇野』第一部 その十六より引用)

井口は初め、矢原の集会所を借りて研成義塾を創設。1901年に新校舎が完成して移転しました。現在の矢原地区公民館には「研成義塾創設の地跡」、移転後の場所には「研成義塾之跡」の碑が残っています。

研成義塾創設の地跡▼



研成義塾之碑▶

井口は30人前後の生徒たちを前に、全教科をほぼ1人で教えました。教え子によると、「人格者たれ」「汝を世に送り出しました。小学校教師だった井口は、芸妓置屋設置反対運動などを理由に、勤務先の学校で排斥運動を受けました。その際、同郷の相馬愛蔵は「天下に君をいれる学校は恐らくあるまい。君をいれることのできる学校―それはたゞ一つ、君自身の学校だ。我々はどこまでも援助する」と井口を助けます。研成義塾はこうして誕生しました。

1969年、穂高に開館した井口喜源治記念館では、井口喜源治の書簡や研成義塾の教科書などを見ることができます。



いぐち きげんじ 井口 喜源治

第3回

小説『安曇野』の登場人物を知ろう！

1898年、仲間の支援を受けて出身地の穂高で私塾学校「研成義塾」を創設。30年余にわたり約7000人を世に送り出しました。

よい人となれ」が口癖だったといひ、人格形成や英語重視など特色ある教育を実践。研成義塾で学んだ人の中には、評論家の清沢洌や実業家の東條たかしなど国内外で活躍した人物もいます。井口の死後、清沢は「無名の大教育家」、相馬は「穂高の聖者」と称されました。

講演会

筑摩書房 創業の精神と現在



喜入 冬子さん

白井吉見が創業当時編集長を務めた筑摩書房。「白井吉見の精神は、今も筑摩書房の中心にある」と考える同社代表取締役社長・喜入冬子さんが、白井吉見への思いを語ります。

■7月12日(水)
14:00～15:30
■堀金公民館講堂
■費無料 定100人(先着順)

■5月29日(月)から電話・ファクス・電子メールのいずれかで TEL71-5123 FAX71-5127
■bunshokan@city.azumino.nagano.jp

講座

ほやの 梅干野研究室・文書館 研究発表会

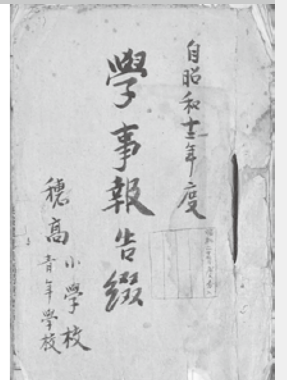
文書館収蔵の資料をもとに調査研究した成果を発表します。

■発表① 明治期の集落景観
「明治16年明盛村『家屋建坪調査票』」を調査
▶山口美空さん(信州大学工学部建築学科 梅干野研究室)

■発表② 安曇野の若者の戦時生活
「青年学校記録」を調査
▶平沢重人さん(文書館館長)

■7月23日(日) 13:30～15:00
■堀金公民館講堂
■費無料 定100人(先着順)

■5月29日(月)から電話・ファクス・電子メールのいずれかで TEL71-5123 FAX71-5127
■bunshokan@city.azumino.nagano.jp



講座

あかみのだん 古文書『赤藁談』を読もう



1825年に松本藩で起きた百姓一揆・赤藁騒動をまとめた『赤藁談』を昨年に引き続き読み解きます。バスで赤藁騒動の地を巡る回もあります。

■6月24日～10月14日(土曜日・全8回) 9:30～13:00
■費各回300円 定20人(先着順)
■堀金公民館講堂
■堀金公民館講堂
■太田秀保さん(塩尻市文化財保護審議委員)

コラム 市誌編さんだより 第11回

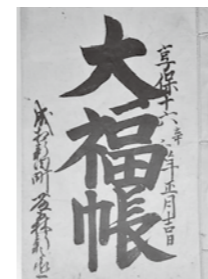
民俗学から見る過去と今

市誌編さん専門調査会民俗部会 事務局 幅 拓哉

皆さんは民俗学というどのような内容を思い浮かべるでしょうか。昔の人々の暮らし、伝統あるお祭り、語り継がれてきた民話や伝承…。確かにそれらは民俗学の大切な分野です。しかし、市誌の民俗編で大切なのは、「過去のこと」だけではありません。今生活している私たちの暮らしがどのように変化しているか、という「現在のこと」もしっかりと書いていく必要があります。

例えば、買い物をする時、かつては地元の個人商店に行ったり、行商を利用したりすることが当たり前で、支払いは現金かつけ払いでした。それが今では、郊外の大店やコンビニエンスストア等のチェーン店が主流となり、支払いも電子マネーやクレジットカードといった方法が増えてきました。この「コンビニ」や「電子マネー」も、民俗編では重要なキーワードとなります。

グローバル化や個人主義が進む現代の生活様式を記録しておくこと。これもまた民俗編に求められる役割の一つなのです。



支払いも、つけ払い(上・江戸時代の帳簿)から電子決済(下)へと変化